2025 年 11 月 25 日（火）【外為Ｌａｂ】松田哲
タイトル：【いよいよ今年（2025 年）も終わりが近い】

日本の祝祭日である勤労感謝の日（毎年 11 月 23 日）を終えて、今週の木曜日（11 月 27 日）は、米国のサンクスギビングデーです。

その日（サンクスギビングデー）は米国の祝祭日に当たります。

これらの日米の祝祭日を過ぎると、外国為替市場はクリスマス相場に突入します。

いよいよ今年（2025 年）も終わりが近い、ということです。

少し、気が早いのですが、今年（2025 年）のマーケット（ドル／円市場）を振り返ってみます。

今年（2025 年）の年初のドル／円は、157 円台程度で始まりました。

年初に 158 円台の高値を付けましたが、大局の方向としては、ドル／円は下落に転じています。

1 月から 4 月にかけて、ドル／円は大きく下落して、安値は 140 円割れ（139 円台後半）を付けています。

この 4 月に付けた 140 円割れ（139 円台後半）の安値からは上昇に転じています。

概して言えば、この安値（139 円台後半）を付けた 4 月から、現在（2025 年 11 月下旬）に至るまで、ほぼ一方通行的に、上昇を続いている、と言えます。

今月（2025 年 11 月）のドル／円の高値は 157 円台後半程度なので、今のところ、今年（2025 年）の高値を更新していません。

++

今年（2025 年）の 4 月以降のドル／円が、一方的に上昇した要因は、単純に言えば、インフレが進んだことが大きい、と考えます。

今年（2025 年）の日本のインフレは加速して上昇した、と考えます。

一般に、インフレ率が上昇する場合は、金融の引き締め政策が採られるのですが、今年（2025年）の金融政策では、日銀は十分な利上げに踏み切れずにいます。
日銀が、インフレに対応した利上げを行うことができなければ、インフレは、さらに上昇する可能性がある、ということになります。

この傾向（日銀の対応が遅れる傾向）は、今後もしばらくは続くと考えます。

だから、今年（2025年）に限らず、来年（2026年）の前半は、同様の傾向が維持される、と考えます。

++

高市新政権の政策としては、インフレを鎮静化させるよりも、積極的な財政政策を優先して、賃金を上昇させることを選んでいるように映ります。

その政策の良し悪しは別にして、新政権の思惑通りに、賃金が上昇するとしても、インフレの方が大きくなる可能性は否定できない、と危惧しています。

来年（2026年）のマーケット（金融市場など）が、バラ色には見えないのが残念です。

++

以前のコラムでも述べたのですが、今後の日本のインフレに対抗するには、個々人それぞれが対応する必要がある、ということです。

簡単なインフレ対抗策は、インフレに強い資産を保有することです。

一般に、インフレに強い資産と言われるものは、株式、不動産、金（ゴールド）、外貨建て資産、そして、エネルギー関連資産（原油など）が挙げられます。

これらの資産は、物価の上昇と連動して価値（価格）が上昇する、とされています。

これらの資産の保有方法は、現物の取引のみならず、と考えます。

つまり、先物取引などを利用すれば、個人でも、現物の資産保有と同じ効果を得られる、と考えます。

インフレ・ヘッジは、個々人でも考えなければいけない時代が来た、と考えています。

++

++

（2025 年 11 月 25 日東京時間 13：35 記述）